

あかりの森プロジェクト

ANNUAL REPORT 2023

あかりの森プロジェクト
2023年度活動報告書



「あかりの森プロジェクト」は
100年先も自然を守り育むため
お客さまとシナネンがともに行う
環境保全活動です

CONTENTS

- 01 はじめに
- 02 海洋環境保全に取り組む
ー 新江ノ島水族館 ー
- 03 本来の里山を取り戻したい
ー 一般財団法人C.W.ニコル・アフアンの森財団 ー
- 04 クマノミがいる美しい海を守る！
ー ハイアットリージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄 ー
- 05 国民参加の森林づくり
ー 公益財団法人 国土緑化推進機構 ー
- 06 シナネンあかりの森メディアの
開設
- 07 まとめ



01.はじめに

100年先も自然を守り育むために

地球温暖化の進行は止まることなく、気候変動によって極端な異常気象の頻度は増加しています。

また、地球上における森林の消失や海洋汚染は非常に深刻です。

そして、175万種類の生き物のうちおよそ2万6000種類もの野生生物が絶滅の危機にあると言われています。

自然の恩恵を受けながら生きている私たちにとって、すでに待ったなしの喫緊の課題なのです。

「あかりの森プロジェクト」は2020年11月から、お客様とシナネンがともに100年先も自然を守り育むプロジェクトとして活動を行っています。

環境にやさしい自然エネルギーの電気を使い、二酸化炭素排出量の削減を推進するだけでなく、様々な団体と連携し、海や陸の自然保護・生態系保護に関する活動に積極的に取り組んでいます。

本報告書は、2023年度のあかりの森プロジェクトの活動を皆様にお伝えするものです。あかりの森プロジェクトにご賛同いただいている皆様に、プロジェクトがどのように貢献しているか、その意義について知っていただき、今後も引き続きご賛同をお願いしたいと思っております。

あかりの森プロジェクト活動指針



1. 自然エネルギーの普及による二酸化炭素排出量の削減に努め、地球温暖化防止に取り組む
2. 海や陸の自然保護、生態系の保護に関する活動に積極的に取り組む
3. 様々な団体と連携し、豊かな自然を守り残していくことの大切さを伝え、気候変動の緩和や影響軽減に関する啓発に取り組む

02.新江ノ島水族館

海洋環境保全に取り組む

新江ノ島水族館では、相模湾を中心とした生物や、それらを取り巻く環境の多様性を展示することにより、つながる命の大切さと素晴らしさを伝えています。また、裸足で歩ける海岸を目指して新江ノ島水族館付近の砂浜のごみ拾いを行う「ビーチクリーン」や、新江ノ島水族館付近の道路のごみ拾いを行う「街クリーン」を行っています。

2023年度よりあかりの森プロジェクトは、新江ノ島水族館の活動主旨に賛同し、えのすいeco法人サポーターに就任するとともに、コツメカワウソを展示・飼育している「カワウソ〜木漏れ日のオアシス〜」の展示スポンサーシップ契約を締結しています。



写真 左から：株式会社新江ノ島水族館 ゼネラルマネージャー 飯塚 一朗、株式会社新江ノ島水族館 代表取締役社長 堀 一久、シナネン(株) 代表取締役社長 清水 直樹、シナネン(株) 専務取締役 渡邊 雅夫（役職名は撮影当時）

昨年11月19日(日)には「第158回えのすいecoデー」に参加しました。あかりの森の番人「ポポネン」とあかりの森の応援隊長「シナモロール」が駆けつけ、さらに、ふたりと仲良しな新江ノ島水族館の公式キャラクター“あわたん”も応援に来ました。

ビーチクリーンには、総勢275名が参加し、うち、シナネンホールディングスグループからも社員や家族など23名が参加しました。

浜辺で実施するビーチクリーンは、ご家族連れのみなさんも楽しみながら取り組むことができます。

また、参加された皆様に、持続可能な社会の実現および地球環境の保護、省エネルギーの大切さを学んでもらうためにシナネンが制作した、ポポネンとシナモロールが登場する絵本とオリジナルステッカーを配布いたしました。



絶滅が危惧される コツメカワウソ

新江ノ島水族館にいるコツメカワウソは、カワウソ類では最小種で、手足の爪が小さいことからその名が付けられています。遊び好きで、動きはとても活発です。手先がとても器用で、前足で魚類、エビやカニ、カエルなどの獲物を捕まえ、手で持って食べることができます。また、指の間には水掻きがあり、泳ぎも得意です。体をおおう毛は二重構造で、水中で体温が奪われるのを防いでいます。

その丸い輪郭に平たい頭、つぶらな瞳、その愛くるしい姿から世界中で人気が高いのですが、密輸や生息地の環境変化により数が減少、IUCN（国際自然保護連合）のレッドリストで「危急種（VU）」に指定されています。

新江ノ島水族館で、カワウソの魅力とともに、カワウソが危機的状況にあること、生態系保全の必要性を知ってもらいたいです。





C.W.ニコルの軌跡

2020年に亡くなるまで、約40年にわたって日本の森林保全活動をリードしてきたウェールズ生まれの日本人、C.W.ニコル。

体の弱かった少年は、柔道を通じて日本文化に触れ、20代で初来日。旺盛な探求心で、カナダの海洋・生物調査、エチオピアの国立公園づくりへと、世界中を駆け巡る。

故郷ウェールズで、森の再生にかける人々の努力と情熱を目の当たりにし、心から愛する日本のために力を尽くそう、と心に決めた40代で北信州・黒姫に定住。

豊かな日本の自然を愛する心から、私財を投じて荒廃した山林を買い取り、多様な命が息づく森づくりに邁進していく。1995年、日本国籍を取得。

自身がいなくなった後も森を守る運動が継承されていくようにと、2002年に「一般財団法人C・W・ニコル・アフアの森財団」を設立、森に子どもたちを呼び込む活動に力を入れていく。

(参照：信州毎日新聞社「森の赤鬼 C.W.ニコルの軌跡」)

03. 一般財団法人 C.W.ニコル・アフアの森財団 本来の里山を取り戻したい

アフアの森では、100年後の未来のために、地域本来の植生を回復させ、様々な生きものが共に暮らせるように荒廃した山林の森づくりを行なっています。

生物多様性の回復を目指し、放置され荒廃した森を再生させること＝「森は人の手で豊かによみがえる」ことを実践しています。

また、森づくりが本当に生きもの達のためになっているかどうかを検証するために生物調査も行っています。森の生きものの声に耳を傾けながら、地道に森の再生活動を行い、37年目の今では長野県の絶滅の恐れのある動植物うち66種(2022年現在)がアフアの森で確認されるようになりました。

あかりの森プロジェクトは、一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団と2023年10月にオフィシャルスポンサー契約を締結、森林生態系の回復および生物多様性の保全活動への支援を開始いたしました。

2023年10月24日（火）には、アフアの森で調印式を行いました。同式には、株式会社サンリオが手掛けたキャラクターであり、クリーンなエネルギー広めるために未来からやってきたあかりの森の番人「ポポネン」、長野県PRキャラクター「アルクマ」も応援に駆けつけました。

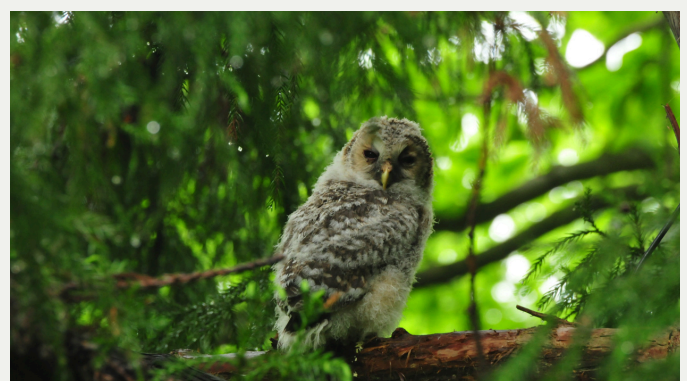


写真 左から：長野県信濃町副町長 小林 義之、C.W.ニコル・アフアの森財団理事長 森田 いづみ、シナネン 榊 専務取締役 渡邊 雅夫、シナネン 榊 代表取締役社長 清水 直樹、長野県林務部長 須藤 俊一（役職名は撮影当時）

©長野県アルクマ



アフアの森 入口



アフアの森に生息している動物の1種「フクロウ」

04. ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄

クマノミがいる美しい海を守る！

ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄では、2021年から沖縄科学技術大学院大学（OIST）の海洋気候変動ユニットの監修のもと、地元である瀬良垣島周辺でのカクレクマノミの育成と海洋での保全・復元を目的とした「瀬良垣島・クマノミ育成プロジェクト」を行っています。

県の観光コンテンツ開発事業としても認定され産学共同での取り組みとしてクマノミの保全事業が行われています。

カクレクマノミは近年世界的に個体数が減少していると言われており、沖縄本島では先島諸島に比べ、岸に近い礁地に生息するカクレクマノミが少ないことが研究により示唆されています。カクレクマノミは生態指標生物と言われており、カクレクマノミが暮らす海は、イソギンチャクが多く生息しており、豊かな海と評されています。



写真 左から：シナネン㈱ 専務取締役 渡邊 雅夫、ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄総支配人 村尾 茂樹、シナネン㈱ 代表取締役社長 清水 直樹、シナネン㈱ 環境エネルギー事業本部電力事業推進部長 飯田 明博（役職名は撮影当時）

昨年9月末に、ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄とOISTを訪問しました。

OISTの気候変動ユニットでは、海洋生物の環境への順化と適応を研究しています。地球温暖化が世界中の海に与えている深刻な状況についてご説明いただき、本プロジェクトの現状についてお話しをうかがいました。OISTのマリン・サイエンスステーションで交配・繁殖したクマノミを隣接するハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄の海に放流し、イソギンチャクへの定着を試みているのですがなかなか多くのクマノミが住み着くには至っていません。

ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄では、沖縄の海のことやクマノミの生態系について気軽に学べるように、潜ってクマノミを観察するアクティビティを行っています。あかりの森プロジェクトはこの趣旨に賛同し、ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄と提携し、プロジェクト会員の皆様へ特別宿泊プランのご提供や、ホテルが実施するSDGsアクティビティの参加補助を行っています。



海の温暖化が カクレクマノミに与える影響

近年世界的に個体数が減少しているといわれるカクレクマノミ。石垣島（や宮古島などの先島諸島に比べ沖縄本島では岸に近い礁地に生息する個体数が著しく少ないことが報告されています。

沖縄科学技術大学院大学（OIST）の海洋気候変動ユニットでは、クマノミの生態を調査。地球温暖化による気候変動が、海の生態系にどのような影響を与えるのか研究しています。

地球温暖化は海水温度を上昇させ、海中に二酸化炭素が溶け込むことで海洋酸性化という現象も引き起こします。

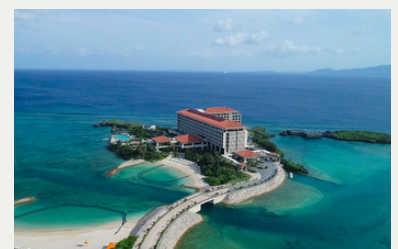
クマノミは身に危険が生じると特殊な化学物質を出して仲間に危険を知らせますが、海中の二酸化炭素濃度が高いとこの化学物質に対して反応することができず、敵に捕食される確率が高くなります。

また、OISTの研究によると、ふ化した段階から海水温度を上昇は遺伝子に影響を与え、成長スピードは早いものの骨密度が低く軟弱な個体に成長する可能性が高くなり、これも個体数の減少に繋がっている可能性もあります。

（参照：令和6年度沖縄観光コンテンツ開発支援事業「瀬良垣島・クマノミ育成プロジェクト」より一部抜粋）



OIST マリン・サイエンス・ステーション (OMSS)



ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄



緑の募金

05. 公益財団法人 国土緑化推進機構 国民参加の森林づくり

国土緑化運動を推進するため、都道府県緑化推進委員会と連携を保ちつつ、募金運動の体制整備を図り、多様な募金活動を展開するとともに、「緑の募金事業」や「緑と水の森林ファンド事業」等を通じて国民参加の森林づくりを推進しています。
(参照：公益財団法人 国土緑化推進機構 ウェブサイト)

あかりの森プロジェクトは、引き続き、国土緑化推進機構の「緑の募金」を通じて「森づくり・人づくり」活動を支援しています。

The National Land Afforestation Promotion Organization

06. シナネンあかりの森メディアの開設



2023年末に、新しいウェブサイト「シナネンあかりの森メディア」を開設いたしました。

- ・あかりの森プロジェクトの支援先
- ・プロジェクト活動近況
- ・電気や環境問題に関するコラム
- ・プロジェクト会員の皆さまへの特典
 - ①ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄の特別宿泊プランご提供
 - ②あかりの森プロジェクトバナーご提供
- ・キャンペーン情報

随時更新しておりますので、ご覧ください。

シナネンあかりの森メディア



Akari no Mori Media

07. まとめ

2023年度は、新しく支援を開始した新江ノ島水族館、一般財団法人C.W.ニコル・アフアの森財団、ハイアットリージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄へ実際に訪れて、活動の現場を拝見しながら詳しくお話をうかがい、意見交換をさせていただくことが出来ました。

また、新江ノ島水族館では「えのすいecoデー」に参加させていただき、地元の方々と一緒にビーチクリーンをする中で、環境保全に取り組む活動は特別なことではなく毎日のちょっとした行動の積み重ねであることを改めて気づかせていただきました。「えのすいecoデー」はどなたでも気軽に参加できるイベントです。ぜひあかりの森プロジェクトにご賛同いただいている企業の皆さま、ご家庭の皆さまにもご参加いただきたいと思います。

来年度は、より各支援先から活動の共有をいただきながら、また実際に皆さまに活動に参加いただく機会を増やしてまいりたいと思っております。

引き続き、あかりの森プロジェクトへのご賛同、ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。